

## 3. 基本理念と計画の目標

### 3.1. 将来ビジョン

#### (1) 基本方針・目標・実施施策の方向性

本市における地域公共交通を取り巻く環境や今後のまちの将来像を踏まえ、本計画の基本方針・目標・実施施策の方向性は以下の通りとします。



## 基本理念

# 「<sup>き</sup>支え・<sup>はぐく</sup>育み・<sup>つづ</sup>続ける」地域公共交通の実現

～市民の移動から復興後のまちづくりを支援～

## 基本方針・目標・実施施策

### 基本方針①：日常生活で「頼りになる」地域公共交通の実現

- ・ 目標①：地域ニーズと復興に合わせて地域公共交通を再編する
- ・ 目標②：使いやすい公共交通機関を整備する

施策1-① 既存の市内公共交通の再編

施策1-② 再編と合わせた各路線のサービス内容の見直し

施策1-③ 新たな移動サービスの導入可能性の検討・実施

### 基本方針②：「地域交流」を支える地域公共交通の実現

- ・ 目標③：観光客の回遊性を高める
- ・ 目標④：わかりやすい情報提供を行う

施策2-① 観光施設等と連携した移動環境の構築・充実化

施策2-② 公共交通の運行情報案内提供の充実化

### 基本方針③：「みんな」で支える持続可能な地域公共交通の実現

- ・ 目標⑤：みんなで公共交通を利用する
- ・ 目標⑥：持続性のある運営体制を構築する

施策3-① 地域主体の地域公共交通の計画・運営の推進

施策3-② 周知・広報を通じた利用促進

施策3-③ モビリティ・マネジメントの推進

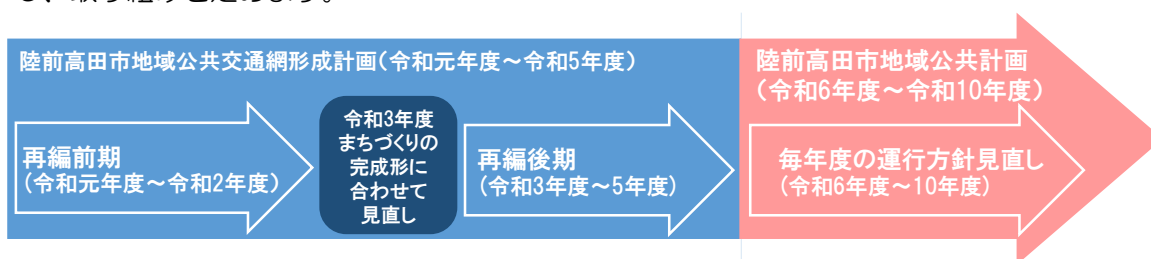
## (2) 基本理念

本市の復興まちづくりの今後の方向性、市民のニーズ、市内交通事業者の実態などを考慮し、関係者全員が連携し「支え・育み・続ける」地域公共交通を実現することで、市民の移動確保を通じて今後の復興後のまちづくりを支援することを目指します。

### 基本理念「ささ支え・はく育み・つづ続ける」地域公共交通の実現 ～市民の移動から復興後のまちづくりを支援～

#### ■計画の構成

- 本計画では、「陸前高田市地域公共交通網形成計画」における復興まちづくりの完成形を踏まえ実施した、令和3年度に再編した公共交通ネットワークを基本とします。
- 令和4年度以降の利用ニーズや利用実態に合わせて見直しする基本理念及び方向性を踏襲し、取り組みを定めます。



▲ 前計画から本計画の見直しのイメージ

#### ■計画の構成

##### ■基本方針①

#### 『日常生活で「頼りになる」地域公共交通の実現』

- 市民の生活の実態に沿った公共交通体系の構築を進めるとともに、今後の復興まちづくりの進展に伴う人々の移動需要やまちの変化と連携した地域公共交通ネットワークの見直しを図ります。

##### ■基本方針②

#### 『「地域交流」を支える地域公共交通の実現』

- 地域公共交通のわかりやすさ、使いやすさを追求し、地域公共交通が市民の外出機会の創出や来訪者の回遊性の向上、交流の活性化の有効なツールとなるような取り組みを推進します。

##### ■基本方針③

#### 『「みんな」で支える持続可能な地域公共交通の実現』

- 行政と交通事業者、市民、そして地域の多様な関係者の連携・協働により、みんなで公共交通を利用し、ともに支えあう持続性のある公共交通運営を行います。

## 3.2. 計画の基本方針と目標

計画の基本方針に対応した目標を以下の通り設定します。

### 基本方針① 日常生活で「頼りになる」地域公共交通の実現

市民の生活の実態に沿った公共交通体系の構築を進めるとともに、今後の復興まちづくりの進展に伴う人々の移動需要やまちの変化と連携した、地域公共交通ネットワークの見直しを図ります。

#### 目標① 地域ニーズと復興に合わせて地域公共交通を再編する

- 復興まちづくりを移動面からも支援するため、利用ニーズと利用実態に合わせて持続可能な地域公共交通の再編が必要となります。市内の公共交通機関を1つのネットワークとして機能させるべく、現行のネットワークを基本に、路線や交通手段ごとの役割分担を明確化し、階層的な地域公共交通ネットワークの構築を図ります。
- 復興事業におけるハード整備は概ね完了したものの、住宅の再建やなりわいの再生などの復興まちづくりは今後も進展することが見込まれます。復興まちづくりの進展に合わせて、既存の地域公共交通機関の枠組みにとらわれることなく、新たな移動手段の導入可能性も含めて、市内公共交通体系の中で位置づけを明確にします。さらに、利用者、運営者双方にとって安心感・安定感のある、持続的な運営に向けた体制を構築します。

#### 目標② 使いやすい公共交通機関を整備する

- これまでの地域公共交通の再編によって、幹線と支線による地域拠点での乗り継ぎを主体とした公共交通ネットワークとなったものの、公共交通機関間の乗り継ぎがしにくいといった問題を抱えています。交通機関間のダイヤ調整を行うとともに、主要な交通結節点を中心に、乗り継ぎ利便性の向上を図ることで、地域として公共交通ネットワークとしての使いやすさを向上させます。
- なお、主要な交通結節点については、現時点の利用者の多さを踏まえることも重要ですが、今後のまちづくりにおける人の流れの戦略的な形成も視野に、適切な整備や維持を行います。

### 基本方針② 「地域交流」を支える地域公共交通の実現

地域公共交通のわかりやすさ、使いやすさを追求し、地域公共交通が市民の外出機会の創出や来訪者の回遊性の向上、交流の活性化の有効なツールとなるような取り組みを推進します。

#### 目標③ 観光客の回遊性を高める

- 地域活力の維持確保のためには、交流人口の確保と滞在時間の拡大が必要となります。市内の観光・集客施設は市内に点在しているため、本市の玄関口である陸前高田駅からのアクセスや市内を回遊する移動手段の確保が必要であることから、市民だけでなく来訪者にとっても移動しやすい地域公共交通の整備や情報提供を行う必要があります。

#### 目標④ わかりやすい情報提供を行う

- 整備した公共交通機関をより多くの方に使ってもらうためには、適切な情報提供が必要です。毎年度の運行方針の見直しによって、運行ルートやダイヤの改正が繰り返されることから、既存取り手が混乱しないように、分かりやすく、かつ丁寧な情報提供を図ります。
- 加えて、新たな利用者や来訪者に対する情報提供として、デジタルデータによる一元的な情報提供により、必要とする方に効率的な情報提供を行います。

## 基本方針③「みんな」で支える持続可能な地域公共交通の実現

行政と交通事業者、市民、そして地域の多様な関係者の連携・協働により、みんなで公共交通を利用し、ともに支えあう持続性のある公共交通運営を行います。

### 目標⑤ みんなで公共交通を利用する

- 整備した地域公共交通は、活用してこそ本来の目的が達成されます。整備・再編することだけを目標とするのではなく、市民・来訪者に対していかに公共交通機関を活用してもらうか、関係者全員で検討し、実行する必要があります。
- 上記検討・実行に当たり、市民の意見を反映させるための仕組みを構築します。

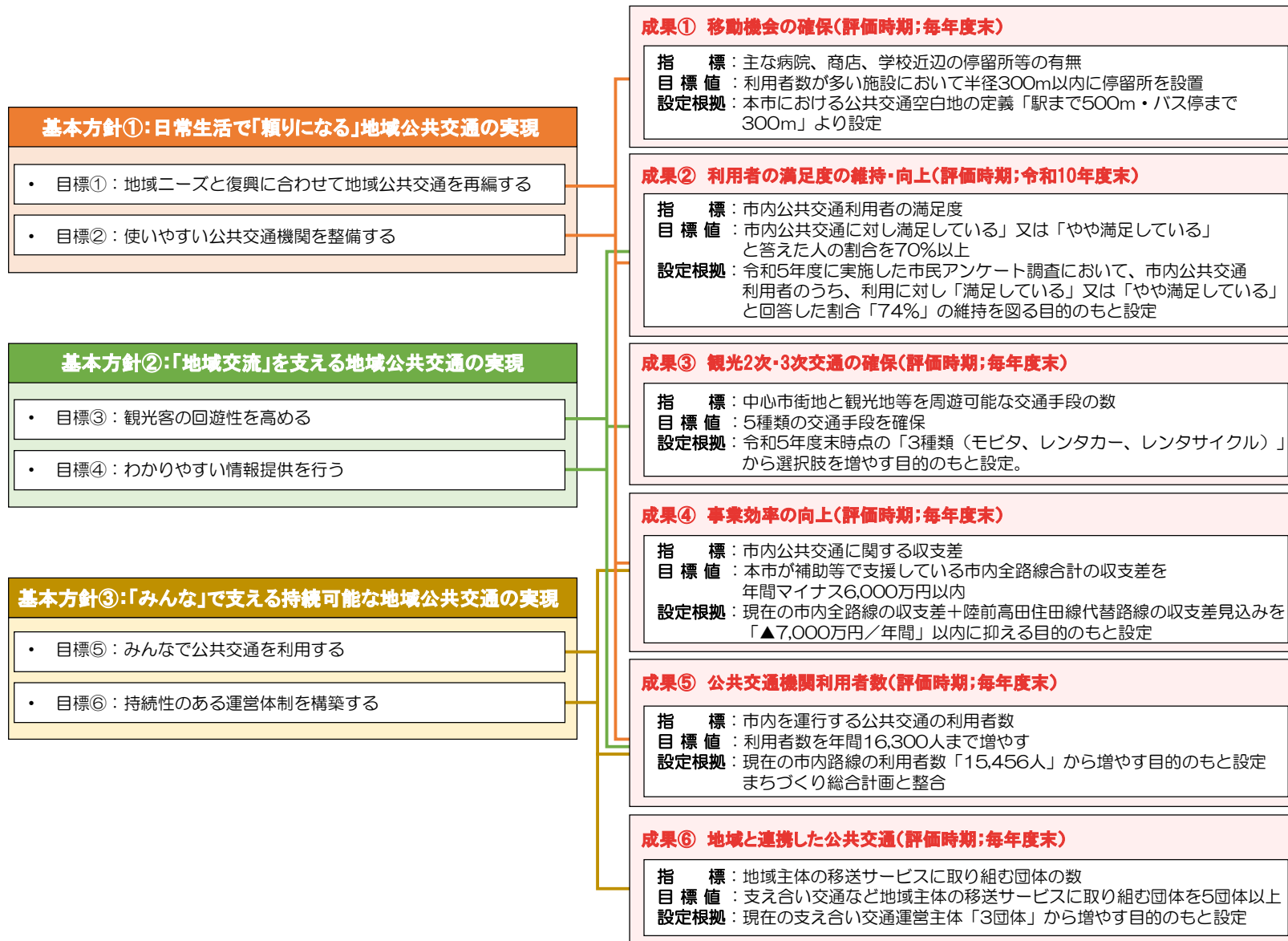
### 目標⑥ 持続性のある運営体制を構築する

- 日常生活の中で移動は欠かすことができませんが、財政状況や交通事業者状況等を鑑みると、全ての移動ニーズに合致した公共交通を整備することは困難です。市民が安心して生活するためには、必要とする移動を公共交通によって実現できることが重要です。また、今後増加することが予想される免許返納に対応していくために、ニーズと移動実態を適切に把握し、地域のおでかけを支える、戦略的な公共交通サービスの提供を目指します。

### 3.3. 評価指標の設定

本計画は5カ年計画であるため、各施策については比較的短期間で取り組み、PDCAサイクル【用語】の中で着実に成果を上げるべき内容が中心となっています。そのため、目標値の設定にあたっては、短期的な達成度合いを計る必要があります。

本計画では、基本方針及び目標を踏まえ、以下に示す指標・目標値を活用して地域公共交通のモニタリングを行い、評価のための基礎資料とします。評価時期については、市民アンケート調査の実施を伴わない「成果②」以外の項目については毎年度末に、「成果②」については計画最終年度である令和10年度末に評価を行います（※モニタリング・評価のスケジュール詳細は「5.5 モニタリング・評価の方法」を参照ください）。



▲ 基本方針・目標に沿った評価指標及び目標値の設定